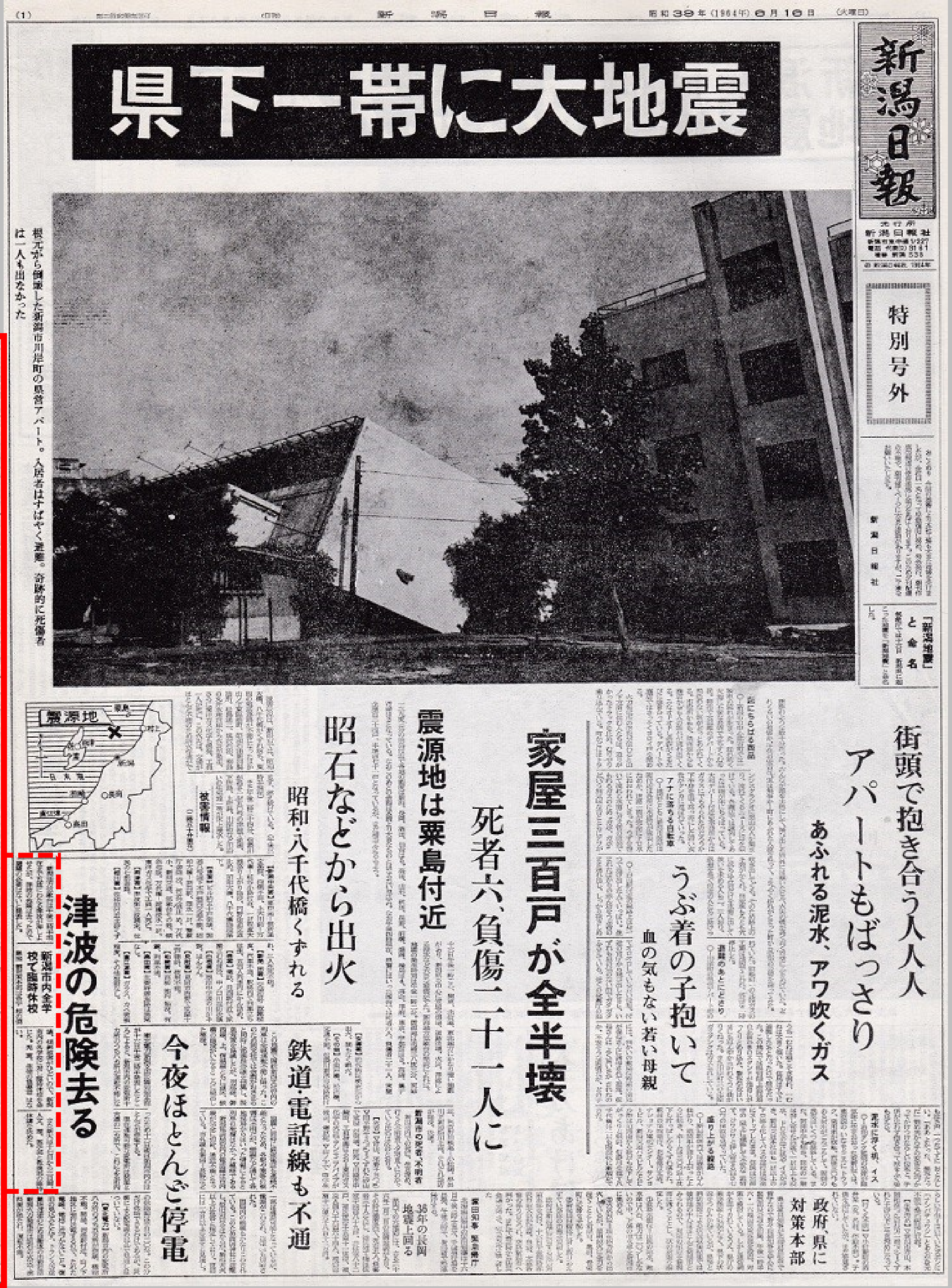
地震直後の地元紙に見られる津波情報



(1) 新潟日報 昭和39年(1964年)6月16日 (火曜日)

新潟日報

特別号外

県下一帯に大地震

根元から倒壊した新潟市川岸町の県営アパート。入居者はすばやく避難。奇跡的に死傷者は一人も出なかった

街頭で抱き合う人人人

アパートもばっさり

あふれる泥水、アワ吹くガス

うぶ着の子抱いて

血の気もない若い母親

家屋三百戸が全半壊

死者六、負傷二十一人に

震源地は粟島付近

昭石などから出火

昭和・八千代橋くずれる

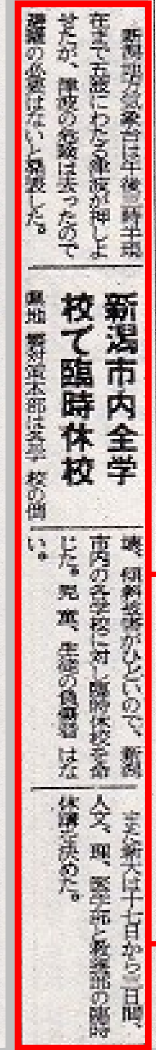
被害情報

鉄道・電話線も不通

今夜ほとんど停電

津波の危険去る

政府、県に対策本部

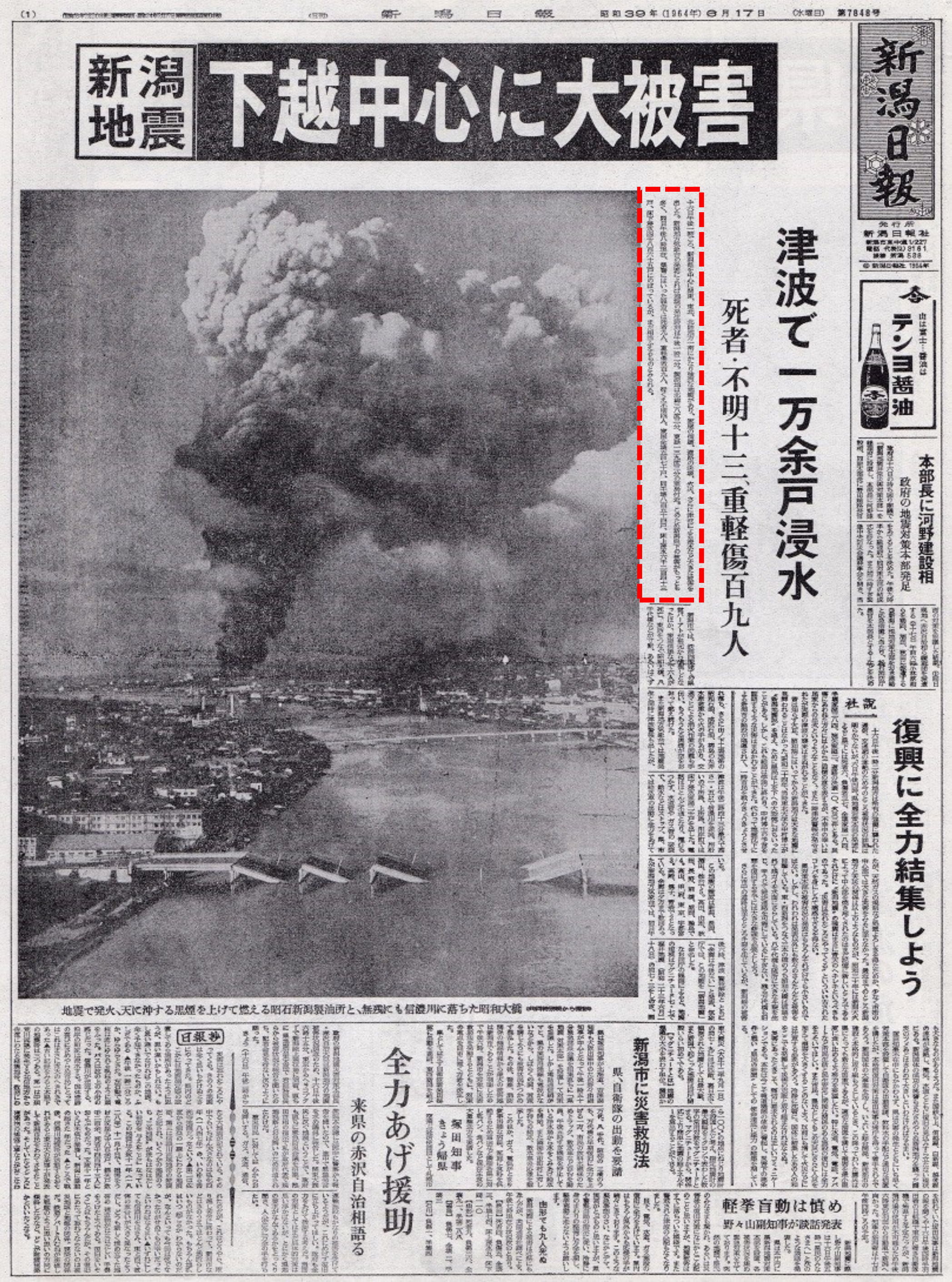


新潟地方気象台は午後四時半現在まで五波にわたる津波が押しよせたが、津波の危険は去ったので避難の必要はないと発表した。

新潟市内全学校で臨時休校

県地震対策本部は全学校の倒壊、傾斜校舎がひどいので、新潟市内の各学校に対し臨時休校を命じた。幼、小、中、高校の負傷者はない。

また新大は十七日から二日間、人文、理、医学部と教養部の臨時休講を決めた。



(1) 新潟日報 昭和39年(1964年)6月17日 (水曜日) 第7848号

新潟日報

新潟地震 下越中心に大被害

地震で発火、天に沖する黒煙を上げて燃える昭石新潟製油所と、無残にも信濃川に落ちた昭和大橋

津波で一万余戸浸水

死者・不明十三、重軽傷百九人

本部長に河野建設相

政府の地震対策本部発足

山は富士・醤油は テンヨ醤油

社説

復興に全力結集しよう

新潟市に災害救助法

県、自衛隊の出動を要請

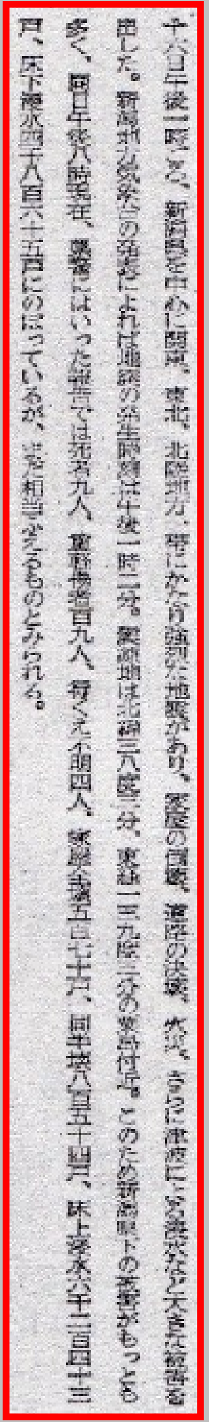
全力あげ援助

来県の赤沢自治相語る

日報抄

軽挙盲動は慎め

野々山副知事が談話発表



十六日午後一時ごろ、新潟県を中心に関東、東北、北陸地方一帯にかなり強烈な地震があり、家屋の倒壊、道路の決壊、火災、さらに津波による浸水など大きな被害を出した。新潟地方気象台の発表によれば地震の発生時刻は午後一時二分。震源地は北緯三八度二分、東経一三九度二分の粟島付近。このため新潟県下の被害がもっとも多く、同日午後八時現在、県警にはいった報告では死者九人、重軽傷者百九人、行くえ不明四人。家屋全壊五百七十六戸、同半壊八百五十四戸、床上浸水六千二百四十三戸、床下浸水四千八百六十五戸にのぼっているが、さらに相当ふえるものとみられる。